

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	437010215
法人名	医療法人 祐基会
事業所名	グループホームおびやま
訪問調査日	平成 20 年 5 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	437010215
法人名	医療法人 祐基会
事業所名	グループホームおびやま
所在地 (電話番号)	熊本市帯山4-374-40 (電話)096-382-6198
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	

【情報提供票より】(平成20年6月9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤 6 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造	
	2階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	75,000 円
敷金	有(30000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(6月9日現在)

利用者人数	6名	男性 0名	女性 6名
要介護1	5名	要介護2	名
要介護3	名	要介護4	1名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.5歳	最低 77歳	最高 98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	帯山中央病院 与儀歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に位置する母体病院に併設され、開設8年を迎えたホーム。民家改造型の室内は広くはないが家庭的な雰囲気があり、入居者は庭の手入れ、食事の仕度を手伝いながら、それぞれのペースで生活している。ごく普通の生活状況の中で、見守りを行なう配慮があり、混乱を抑える環境となっていた。入居定員が6名と少なく、日中は職員2人の勤務体制であり、外出や行事など、多様な活動支援は容易ではないと思われるが、それでも、「入居者がその人らしく生活できるように」また、「外出の機会を増やし、楽しみのある暮らしができるように」という思いで、熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で課題とされた「人員の強化や勤務ローテーションの改善」に関して、改善のための取り組みを確認することは出来なかった。「介護計画の見直しの遅れ」に関しては、タイムリーな見直しが行なわれており、努力が見られた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) これまでは幹部職員だけで行なっていた自己評価を、今回から全職員が、それぞれの立場での評価を試みている。現状を振り返り、改善のためのチャンスと前向きに取り組んでおり、質の改善への活用が期待される。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員から「定期的な行事開催」や「職員による地域の一人暮らしの高齢者宅訪問」「話のボランティアの来訪」など、積極的な意見や提案が出されているが、現職員体制では制約もみられ、対応の難しさが感じられた。ホームの現状と課題を見直し、取り組み項目に優先順位をつけ、人員の支援などがあれば、提案が活かされ、効果が出るものと思われた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年2回の家族会や家族面会時に出示された意見や希望のうち、処遇面での要望には速やかに改善の努力をし、設備面での希望は母体法人に報告・要請し、対応への努力が行われている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の夏祭りや防火訓練・清掃作業などに参加し、ボランティア活動も受け入れて、草取り・障子張替えなどの支援を得ている。またコミュニティーセンターでのカラオケや踊りなどにも参加し地元の人々との交流を図っている。今後はより多くの住民に、グループホームの存在を知ってもらい、地域密着型サービスの意義を理解してもらうために、ホーム職員だけでなく、母体法人・運営推進委員との連携による活動が期待される。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を守り、安心して暮らせる場所を確保し、その人らしい生活が出来るような環境を提供することで、一人ひとりの思いに沿ったケアの実現を目指す独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示し、毎月のミーティングで確認作業が行われてはいるものの、全職員が内容を十分に把握し、行動規範とするまでには至っていないように伺われた。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に加入し、町内の夏祭や防火訓練・清掃などに参加している。ボランティア活動を受け入れ草取り・障子張替えなどの支援を得ている。また、顔馴染みになったボランティアが活動するコミュニティセンターでのカラオケや踊りなどに参加し、地元の人々との交流を図っている。夏祭りや老人会に参加した際、認知症への理解が乏しい住民から心無い言葉をかけられた事例もあり、参加に消極的になっているようだ。	○	グループホームの存在意義や認知症への理解を深めるため、地域での活動を母体法人と連携して行うことも必要かと思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	幹部職員の交替があり、殆どの職員にとって初めての自己評価の実施経験であったが、サービスの現状を振り返り、質の向上への良い学びの機会と捉え、前向きな自己評価が行なわれていた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と家族の代表・自治会長・老人会長・民生委員・地域包括主任ケアマネジャーなどの参加で、2ヶ月に一度開催。ホームから入所者の状態・職員の介護活動報告を行い、地域包括センターから講演会や勉強会などの連絡事項が実施され、その後、全参加者による意見交換が行なわれている。	○	毎回、母体法人からの参加があれば、課題の解決やサービスの質の向上への取り組みも力強くなると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	通常は地域包括支援センターや同法人内の居宅支援事業所と連絡をとり、市行政からの情報を得ている。行政での手続き等は問題なく行なわれているが、サービスの質の向上に行政の意見が出されるまでは至っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全ての利用者家族が1～2週間に1度位の割合で面会に訪れており、記録を見ながら口頭の報告を行い、緊急時にはその都度電話で連絡・報告が行なわれている。日常生活やイベント参加時のスナップ写真などを家族に送付し、理解を深める工夫も良いと思われる。	○	写真の送付や定期的な便りなどがあると、入所者の生活ぶりや表情が伝わり、家族の安心にも繋がり、家族とホームの信頼関係が、より強くなると思われる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に思いを聞く努力をし、時には家族訪問を行なっている。年に2回家族会を行い、意見交換の機会を設け、処遇面での要望には、速やかに改善の努力をし、設備面での希望は母体法人に報告・要請し、対応への努力が行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの事業開始当初から勤務している職員が2人おり、職員交替でのダメージは少ない。新人採用は法人で行なわれ、ホームに配属され、経験豊富なホームの職員が新任の指導を行っており、馴染みの関係作りが行なわれている。	○	同一敷地内に病院・ヘルパーステーション・デイケアなどが併設されており、他事業の職員と利用者の交流機会を増やすことで、馴染みの職員も増え、法人内での異動による利用者のダメージ軽減にも役立つと思われた。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修・認知症基礎研修など、該当者への研修参加を促している。母体法人でも毎月研修会が行なわれているが、職員体制等から参加しにくく、職員相互で現場視点の学びが中心になっているようだ。	○	認知症対応の専門職として、またグループホーム職員として最新の情報を得るなど、体系的な研修計画と実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に加入し、3ヶ月に一度の例会に参加して、課題の共有を行なっている。また、他のグループホームを見学し、改善へのヒントを得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に何度もホームを訪問してもらい、お茶や食事を共にし、ホームの雰囲気になれる機会を多く作っている。また、職員が家庭を訪問して馴染みの関係づくりをするなど、十分な時間と話し合いを経てサービスを利用できるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から入浴時のお湯の量・台所のガスの火の調節・生ゴミ用袋の使い方など、無駄を少なくする生活の知恵やアドバイスを受けるなど、学びながら支え合って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際、センター方式を活用して詳細な利用者の情報を記入している。また、入居者同士の日常会話の中から、食べたいもの・見たいもの・行ってみたい所などのヒントを得、利用者の思いや意向の把握に努め、希望に沿うための努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望・家族からの情報と状態を観察して、身体的・精神的課題を捉え、本人のニーズを中心にした介護計画を作成している。計画は本人や家族の理解を得たあと、サービス担当者会議で職員に説明しサービスを開始している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月から6ヶ月ごとに見直している。入院したり、状態に変化が生じた場合は、その都度計画を見直し、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	長年実家に帰ったことが無い利用者の「帰ってみたい」という思いを職員の支援で実現している。日頃表情が乏しい利用者も懐かしい実家の風景に感動し、仏壇に参り、大変安らいだ様子で横になり、帰り際に、職員に「ありがとう」と感謝の意を表している。この経験を通して、他の利用者も、故郷・お墓参りなど、希望の場所に行けるような支援をしたいと考えている。	○	職員は入所者の外出支援を希望しており、人員体制にゆとりが持てる工夫や、見直しも良いかと思われた。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人・家族にかかりつけ医の希望を確認しているが、現在は病院併設ホームということもあり、全員が母体病院をかかりつけ医としている。外科・歯科・泌尿器科などの診察は家族の許可を得て、職員・家族が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで終末期の看取りの経験はない。重度化や終末期に向けて、家族や主治医との話し合いの場はあるが、ホームとしての明確な方針の設定はない。	○	母体病院との連携のもと、ホームとしての方針を明確にし、職員で共有することで、職員の意識も明確になり、日々の介護もより安定したものになるものと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導やおむつ交換の言葉かけなど、周りの様子を見ながらプライバシーに配慮し、柔軟な対応の努力がみられる。職員は個人記録の記入をリビングで入所者を見守りながら行っているが、情報の取扱には注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	部屋でテレビを見る人・寝ている人・庭掃除をする人・昼食の準備を手伝う人、遅い朝食を摂る人など、調査訪問日の午前中は入居者それぞれが自分のペースでゆっくと過ごしており、職員はさりげなく見守っていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		○食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	チラシ・TVの料理番組などを参考に、利用者の希望を聞き、献立をたて、利用者と職員と一緒に近くのスーパーで食材を購入し、食事の仕度をしている。食事時は利用者の好みでテレビはつけず、静かな雰囲気である。配膳・下膳・お茶を入れるなど、食卓の準備をする様子は、一般家庭の生活のようであった。	○	食事は静かに頂くものと心得ている利用者が多く、私語は一切無く、シーンとした雰囲気になっており、楽しめる環境作りへの工夫も必要かと思われる。また、たまには外食や出前を取るなどの機会を持つと、気分も変わり楽しみが増えるかと思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎午後、好きな時に入ることができる。入浴時間も、自分のペースで自由に、ゆっくり味わえるように支援している。入浴嫌いの入所者にはカレンダーに○をつけて次回入浴を約束してもらったり、昼食後の団欒のとき、一番風呂を勧めたりの工夫が見られた。入浴後「ここは一人でゆっくりは入れるから良かなー」という感想が聞かれ、職員の努力が報われていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時に生活歴や楽しみなどの情報を得、得意なこと、好きなことが継続して出来るように支援をしている。食事の仕度・畑仕事・庭掃除・読書・手芸・裁縫など、本人の意思や状態に合わせた支援がみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い物にスーパーに出かけたり、近くの小学校への散歩や整髪に理容院に出かける等、日常的な外出はあるが、イベント的な遠出の機会は比較的少ない。今年は運動公園まで桜見物にでかけ、6月にはあじさい見学を予定する等、職員の思いと努力が伺えた。	○	外出の機会を増やしたいと願う職員も多いが、日中は職員が二人体制となり、対応が難しい事から、母体病院・デイケア等協力が得られると良いと思われる。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉には小さな留め金をかけているものの、玄関は施錠されていない。リビングや台所で仕事をしながら、門の開閉が見渡せ、利用者の出入りが見守られている。最近では外に出かける人は少なく、問題もおきていない。帰宅願望がある場合は一緒に出かけ、ホームに帰りたくなるまで行動を共にするなど努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの昼・夜、それぞれの体制を想定して、火災時の避難訓練を行なっている。また、法人全体での火災訓練や町内主催の訓練にも参加し、非常事態に備える意識継続に努めている。また、地域の人々の非常時協力体制も出来つつある。	○	母体法人・消防署・警察などへの非常通報装置の設置が期待される。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者と職員でたてており、メニューのチェックを病院の管理栄養士に依頼している。栄養管理の必要な入所者に関しては、食事内容・水分摂取量を細かに記録し、主治医に報告し指示を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造し利用しているため、廊下・トイレ・リビングなどはゆとりある広さはないが、家庭的な暖かい雰囲気となっている。共用部分の清掃も行き届いており、清潔感を保つ努力がされている。トイレは手摺などの設備はあるが、車イス利用者やオムツ交換の介助時には手狭であるように観察された。	○	施設建て替えが検討中であり、今後期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の採光は良く、優しい色のカーテンは部屋毎に異なり、それぞれの部屋の雰囲気づくりに役立っている。家族の写真・仏壇・使いなれた整理ダンスや机・鏡台・読みたい雑誌など、思い思いの品物が置かれており、居心地良く過ごせる工夫と支援が見られた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おびやま
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市帯山4丁目6番31号
記入者名 (管理者)	松野 民子
記入日	平成20年3月31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中の1人として行事の参加。近隣の店に利用、散歩等により顔見知りになれるよう。支援しています。ただ住民の方々のグループホームの理解が薄く感じます。	交流の機会を作りグループホームへの来所。認知症の勉強会等開催できたらいいと、思っています。民生委員の方達と地域の一人暮らしの方々を時々訪問しています。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングのとき確認しあい、前向きに取り組んでいく努力をしています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方の面会時、理解してもらえよう再三、伝えていきます。又家族、地域のボランティアとの交流(食事会・茶話会)を時々行っています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事参加時、又一人暮らしの方々を訪問する際声かけなどしていますが、挨拶程度では、立ち寄ってもらうまではいっていません。	<input checked="" type="radio"/> バス通りに面した場所にある家の人たちとは、気軽に挨拶、立ち話しなどもして、比較的親しく接することができますが、ホームの裏側の人達との交流がうまくいきません。なるべく散歩等の時、顔見知りになるように心がけております。近隣の方がいつでも気軽に立ち寄ってもらえるようなホームでありたいと、願っています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り・運動会・町内の清掃・防火訓練などなるべく大勢での参加に努力しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中で役立てる様、活動開始したばかりです。いつでも「ちょっと」立ち寄ってお茶でも飲んでいただけるような、ホームにと考えております。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○外部評価を受けることにより、ケアの質の向上 ○認知症の方に対する対応 ○初心に戻り認知症の勉強会		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催することにより、記録方法等も少しではあるが変化したように思える。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各自職員は理解できているようです。現在、制度を利用している利用者がいないので、明確にはわかりません・		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、更衣時等、各職員注意し観察しておりますが、今までこのようなことは、全くありません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何度も読み直してもらい、理解してもらっています。又説明も十分行っていますが……？	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者同士の会話に耳を傾けています。たまに個人面談では世間話から、色々な想い等を聴く時間をもうけ不平・不満がないように努力しております。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には、細かな情報、出来事を伝えたりしております。またその他緊急時はTELにて連絡しています。その後の結果報告もしています。訪問の少ない家族には、随時TELで近況報告しています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がなんでも言えるようにスタッフ一同努力しています。又何か、言いたそうな家族がいれば家庭訪問をしています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時には個人面談等して各職員の想いを、法人代表に伝えている。また管理者会議の時に意見を出している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務調整、なんとかやりくりしています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期異動は特別な事情がない限り行っていない。移動や離職がやむを得ない場合は、できる限り利用者に影響がないように、又、引継ぎ等も最善の努力をしている。	ホームスタッフだけではなく、他部署も認知症の理解を深めるように、研修を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行っている研修に参加するようにしている。事業所外で開催されている研修を、受講できるように情報提供に努めている。	研修を受けた職員が、報告や発表をすることによって、多くの職員のレベルアップを図りたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの見学や研修会に参加するよう努めている。	他グループホームと今、以上に交流を持ち質の向上に励みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気分転換や親睦が深まるよう、年に2回以上は法人内で親睦会を開いている。	年に2回でも、個々の職員と面談し十分に話を聞き、ストレス解消法を見出したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるよう自からの目標を持たせ、評価を行っている。	職能評価など行っているが、まだ十分に確立できていないので、職員が向上心を持てるように改善していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度もホームを尋ねてきてもらっています。見学・説明・お茶・食事など少しずつ慣れてもらうよう、時間をかけて行っています。なじみの関係ができるまでは、本人、家族の納得いくまで、十分な時間をとって、入所に結びつけております。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面談の時間等な十分な時間をかけて行っています。家族の都合のいい時間に合わせスタッフが対応しています。十分に話を聞く、また話せる雰囲気をつくる様努力しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅のケアマネージャー、また各施設の方々とも十分な話し合いの場をつくり本人・家族が納得できるような支援をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族共何度も繰り返し、ホームに遊びにきてもらっています。その間、職員が家への訪問等でなじみの関係には十分配慮しております。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	学ぶ事が多い。一方的な押し付け、主観的な見方、認知症だからでは決してなく、個人、人生をより長く生きてきた「人」として、信頼関係ができるよう、心をこめて接する。これがモットーです。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 来訪者（）	家族が気兼ねなく自由に訪問できるような、環境・雰囲気作りに気を付けています。草取りや大掃除のときなど一緒に参加もお願いしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも自由に会い、外出・外泊もOKです。利用者と少し間をとったり、お互いの関係がうまくいく様に支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の来訪、帰宅などいつでもうけております。ただ入居が長くなると、来訪者(知人)が少なくなってきました。こちらから出かけるような策もとっております。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は常に心がけております。なるべく利用者同士の関わりがもてる様に支援しております		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族が尋ねてきたり。また近隣の施設入所の方のところにはお見舞いに行ったり、いい関係は出来ていると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活状況、環境、生活暦など、十分に検討しあい今、何が一番必要か、どのような想いで暮らしているかを、繰り返し話し合い、本人にとって一番いい生活にもっていけるように支援していきます。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	幾度となく面談を行い、情報をもらっています。また面会の都度、わからないところは聴きなおしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれ、その人にあつた生活を過ごしてもらっています。表情、言葉づかいなどから、その時々気分などが察知できる様な訓練はしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を十分に聞き取りそれをカンファレンスして計画たてております。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題が発生したら、すぐにミーティングを開いて話し合いをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と個別記録がうまくかみ合っていない気がします。今全員で勉強中です。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	コミュニティようは時々行っております。(カラオケ・踊りなど)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察にはグループホームの内容、電話番号等は知らせております。民生委員さんへは協力をお願いしております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院であるので、家族は安心しておられます。病院を決める時は家族、本人の意見を重視しております。他科受診時職員、家族と同伴しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム自体狭いので、特には守れないこともあるかとおもいますが、その時はお互いに注意しあいプライバシーを損なわないように心がけております。記録や個人情報に関しては、職員全員十分な知識を持っているので守られています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「本人の希望を」と日々の中で口にしておりますが、時には相反することもあります。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人希望、優先は十分承知しておりますが、忙しさについつい職員の都合になる事も多々あります。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する美容室に行っていませんが、地域のお店を利用しております。すでに馴染みになり、お喋りしたり、お茶したりして楽しんでおられるようです。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合ったことをされています。包丁使いが上手な人、後片付けが得意な人といった具合に、しかし無理には決して、してもらわない。自分から動き出す支援はしておしませす。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒飲む人はいません。飲み物に関しては、常にテーブルの上に用意しておりますので、自分の好きなものを飲んでおられます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレに行けない人に関しては表を作成しパターンを知りなるべく昼間はパッドを使用せず、トイレで排泄できるように支援しております。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴可ですけど、やはり午後に集中してしまいます。しかし入浴時間は自由、ゆっくりの人、早めの人など様々です。気持ちよさを十分に味わって欲しいと思っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自由です。いつでも、どこでも眠い時、きつい時は休憩してください。と言っています。気をつかわせない工夫をしております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人個人の得意。不得意を十分知り得る努力をしております。その人の力を発揮できるような支援をしております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームでしております。ただ買い物時は個人個人の財布を持って出かけます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿うよう心がけております。天気の良い時は庭先でお茶を飲んだり近くへ散歩に行っております。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気候に応じてバスハイクなどしています。家族と共ににはなかなかできません。今は職員だけです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話利用者もいますし、ダイヤル回せば会話できる人もいます。希望があれば随時電話しております。手紙の方はほとんどいません。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問してください、とはしていますが、友人などは殆んどありません。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で取り組んでおります。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「鍵はかけない」が原則でいっています。時々勝手にホームを出て行く人がいましたが、最近では観察していると表情やしぐさでわかるようになってきました。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守り、気配りとアンテナをはって仕事に取り組んでいます。職員同士の呼吸が合うと意外とうまくいきます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一応職員で保管しております。必要時いつでも取り出せるようにしております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットの必要性を感じております。ヒヤリ・ハットを書くことになり事故を未然に防げたと感じてこともしばしばです。又各マニュアルを作成しておりますので、職員は各自、目を通していただいております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すぐに母体の病院へ連絡していますので、自分たちでの対応は今一つと思います。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回グループホームでの災害訓練。又病院の訓練も参加しております。地域の3丁目の訓練の訓練も年2回参加し、協力得ております		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前より十分に話しております。家族の理解も了解も得ておりますが・・・転倒の場合もすぐに連絡、ミーティングして、その後の対応までかぞくに一つ一つ丁寧に説明しております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の観察、V・Sチェックに気をつけております。又病院、主治医との連絡も密に行い早めの検査、治療を行っています。家族に関してはすぐに電話連絡。その後の情報(結果)をお知らせしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人の記録用紙の前に貼っています。又変更などの際は記録用紙に赤枠をして、すぐにわかるようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から水分、運動、食事等に気を配っています。どうしても必要な時は内服薬のアローゼンなど使用しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きは必ず行っています。又夕食後ポリデント使用の方もおります。義歯洗浄、歯磨き、含嗽等の時はスタッフが見守り、清潔には気配りしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が必要な方はチェック表を使用しています。栄養の方も時々、メニューを病院の管理栄養士にチェックしてもらっています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防接種はスタッフも利用者な方も全員行っています。又手洗い、含嗽、保清には十分気をつけています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具はハイター、熱湯等を使用しております。食材は使い切り、生物はその日の内にと、十分気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門から玄関、芝生、又狭いながらも、畑を作って野菜を作っています。春先は白蓮の花が咲き、裏庭にはきんかんもなっていて、いい感じだと思います。ただ玄関が少し狭い感じはします。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い建物で狭い感じはします。又暗いので昼間も電気はつけています。ただ、現在の入居者、家族は落ち着くといわれております。欠点は狭いため、プライバシーが守れない場合があります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間がふれあいの場になっています。又変気のいい日は縁側で日向ぼっこして会話されております。一人になりたい時は、自室で過ごされております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人思い出の家具、テレビなど持参しております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居間の季節はいいのですが、冬の間はなかなか換気がうまくいきませんでした。開放すると「寒い」と苦情があっても時間おいての換気は十分、職員同士気をつけております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭いぶん握る、つかまるところが多く、割合スムーズに過ごしておられるようです。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ほとんどないようです。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	地域のボランティアの人たちにより狭い畑にいろいろな野菜を作っております。また暖かい日は外で、お茶、食事などもしております。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)